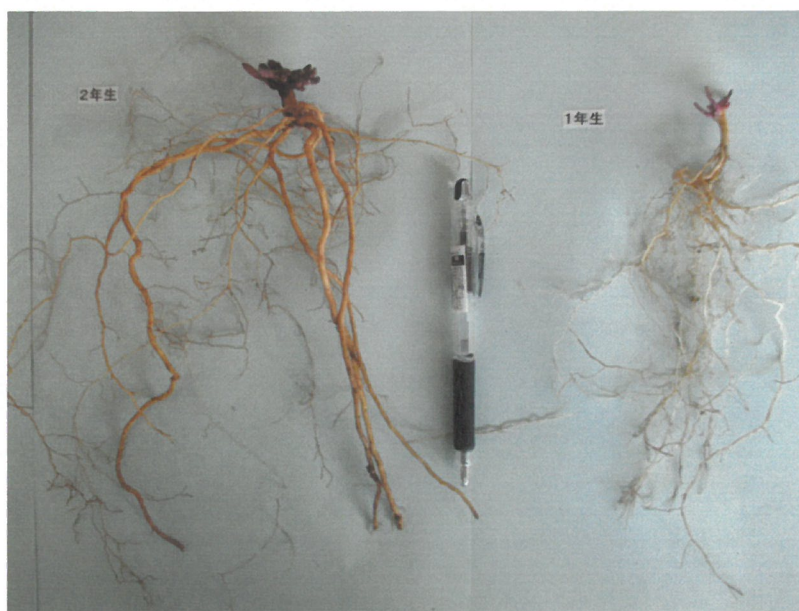


ヒロハセネガの育苗マニュアル

山梨県総合農業技術センター(2020年3月)



① 種子の採取方法

・11月ころに株の下に落ちている完熟種子を採取する



* 未熟種子では発芽しない



種子を土壌ごと採種



8mm 目



2mm 目

ふるいで種子を分離

② 種子の水浸漬処理方法

- ・種子を洗淨し、できるだけ土や異物を除去する
- ・透明の瓶などに種子を入れ、水道水を種子が浸るよう適量を入れる



- ・容器を冷蔵庫(約 5°C)に入れ、約4ヵ月間、保存する



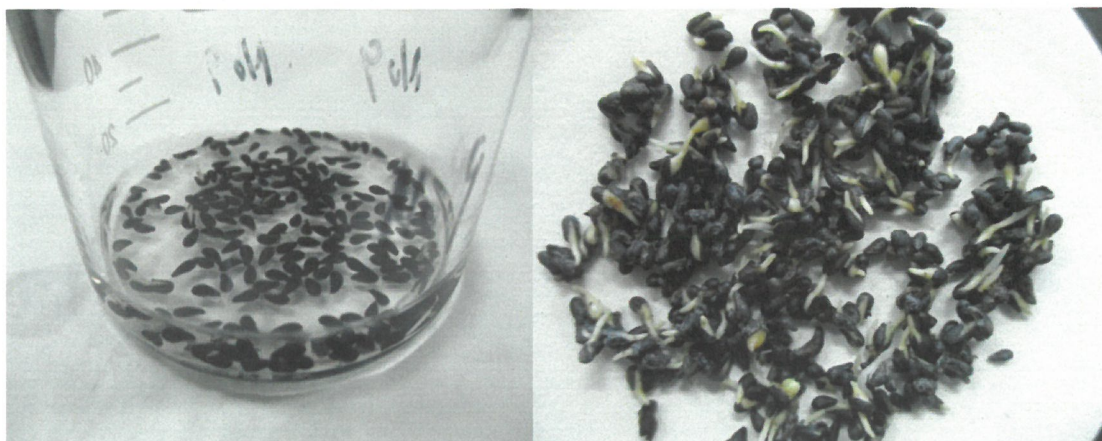
- ・保存中に水が濁ってきたら、新しい水に入れ替える



* 瓶の口にガーゼなどをかぶせ、そのまま水道水をしばらく掛け流しするとよい

- ・3～4カ月間、処理すると発芽が始まるので播種の準備をする。

* 水に浸漬した後に発芽してきた種子は、根が2～3mm くらいに伸びるまでは水中で生育しているが、それ以上になると腐敗し始めるので注意する



③ 発芽処理した種子の播種方法

- ・処理が終わった種子は、水を除去した後にバーミキュライト(細粒)と混ぜて、そのまま圃場などに播種する(4月中旬～下旬)
- ・播種が終わったら、軽く覆土し、直ちにかん水して、乾燥を防ぐ



* 二つを混合して播種する

種子

バーミキュライト(細粒)



播種後に発芽した様子(4月)



圃場定植後の様子(7月)

- * 春先に苗の先端にアブラムシが発生するので、適宜、防除する

・耕種概要（10a 当たり）

必要な種子の量：2～3L（密植栽培 5～8L）

栽植密度：1m 幅の床に4条蒔き、後に2～3cm 間隔に間引き

施肥：堆肥 1,500～2,000 kg、苦土石灰 100 kg

菜種油粕 100kg、乾燥鶏糞 200kg

リン酸 3kg、カリ 3kg

（「薬用植物 栽培と品質評価」 厚生省健康政策局創薬・新医療技術研究会監修より引用）

なお、収穫物の生薬としての販売は、製薬会社との事前の契約が必要となる。

相談窓口：薬用作物産地支援協議会 TEL 03-6284-2534

E-mail : soudan@yakusankyo-n.org

総合農業技術センター・高冷地野菜・花き振興センター

（栽培に関すること）TEL 0551-25-6201